

『カラマーゾフの兄弟2』おもな登場人物



アリョーシャ(アレクセイ・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……フョードルの三男。誰からも愛される清純な青年。町の修道院で暮らす。長老ゾシマを心から尊敬する。
ミーチャ(ドミートリー・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……フョードルの長男。先妻アデライダの子。退役将校で、放蕩のかぎりをつくす激しい性格だが、高貴な心をあわせもつ。
イワン(イワン・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……フョードルの次男。アリョーシャと同じく、後妻ソフィアの子。大学で工学を学んだインテリで、シニカルな無神論者。
フョードル(フョードル・パーヴロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の父親。地主。無一文から身を起こし、一財産を築いた。無類の悪党にして道化、女好き。
スメルジャコフ……カラマーゾフ家の下男で名前はパーヴェル。同家の召使グリゴリーとマルファの夫婦に育てられる。モスクワで料理を習い、同家で料理人を務める。イワンに心服する。

DIC
216p

ゾシマ長老……死の床にある、町の修道院の長老。慈愛にみちた高德の人物で信者の尊敬を一身に集める。かつて軍隊にいたとき、決闘事件を起こした体験をもつ。
グルーシェニカ(アグラフェーナ・アレクサンドロヴナ)……町の老商人の囲われ者だった、妖艶な美人。カラマーゾフ家の父親、兄弟たちと深くかわる。
カテリーナ(カテリーナ・イワノヴナ、カーチャ)……ペテルブルグの女学校を出た知的な美人。中佐の父がある横領事件でミーチャに助けられたことで、彼に恩義を感じている。
リーズ(リーザ・ホフラコワ)……町の裕福な未亡人カテリーナ・ホフラコワ夫人の娘。十四歳。体は弱いが茶目っ気があり、アリョーシャを愛している。
フェラポント神父……斎戒と沈黙の行をつづける高齢の修道僧。ゾシマを敵視している。
スネギリョフ二等大尉……病気の家族をかかえる、極貧の元軍人。「ございます」口調で語る。その息子イリユーシャは、体の弱い、誇り高い小学生。